

硬質小麦ゆめかおりの穂肥診断基準の確立

【特徴】

- ・穂揃い期の止葉葉色の測定値から子実のタンパク質含有率を予測し、目標値に応じた施肥を行うことでタンパク含有率の均一化を図る技術。
- ・止葉の葉色を葉緑素計（SPAD）あるいは葉色板で測定することにより、簡単に穂肥診断を行うことができる。

【活用が見込まれる分野】

- 現地実証済み
- 県内「ゆめかおり」生産農家（40ha）で活用中

【成果】

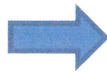
- 「ゆめかおり」栽培指導資料の作成（マニュアル）

【技術内容】

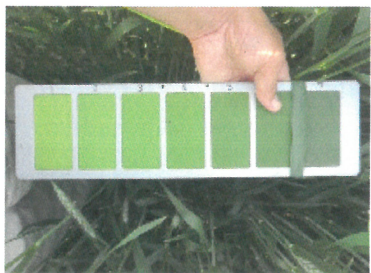


(SPAD)

葉色測定



穂肥量決定

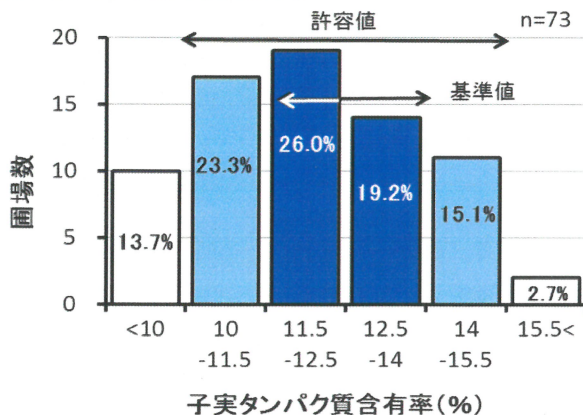


(葉色板)

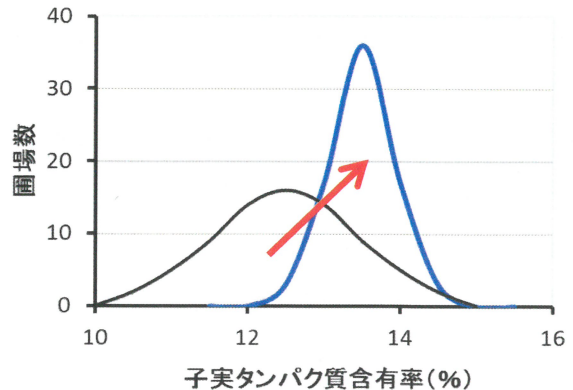
穂揃期葉色		穂肥窒素量 (kg/10a)
SPAD	葉色板	
35.0-42.0	5.1-6.0	6
42.1-46.0	6.1-6.5	4
46.1-50.0	6.6-7.0	2
50.1以上	7.1以上	無施用

- * 葉色板の値は止葉 単葉の葉色
- * 子実タンパク質含有率の目標値12%

この技術の利用により



○子実タンパク質含有率がばらつきが大きい



○タンパク質含有率の高位化と均一化

お問い合わせ先

山梨県総合農業技術センター(TEL:0551-28-2496)